



厳しい暑さが、少し和らいできたように感じます。夜には、秋の虫の音が聞こえてくるようになりました。



これまで、学校の木々は、花や実をつけるため、暑さに負けずぐんぐん成長していました。葉や枝は、日光を程よく遮り、雨や風を防いでくれますが、窓をふさいでしまうところも出てきました。そして枝の間には、いつの間にかスズメバチが巣を作っていました。子どもたちに被害が出る前に駆除しましたが、大きなものは、バレーボールくらいの大きさがありました。

木もスズメバチも、精一杯生きていますが、私たち人間側から見ると、少し迷惑であったり、困ったりする状況になることもあります。

子どもたちは、学校で毎日大勢の友だちと一緒に生活し、集団の中でお互いに安心して過ごすことのできる「社会性」を身に付けることを学んでいます。

木やスズメバチを例えに出すのは子どもたちに大変失礼ですが、集団の中で生活しているなかで、知らず知らずのうちに友だちをいやな気持ちにさせてしまったり、周りに迷惑をかけてしまったりすることがあります。

そんなとき、二つのとても大切な言葉があります。



一つは、自分の心を素直に見つめ、相手の気持ちを大切に考える「○○○○○○」

もう一つは、自分も相手も笑顔になる、幸せを交換しあえる「○○○○○○」

二つの言葉が、心の底から自然に発せられるようになり、友だちと正しく関わり、お互いを尊重しあえる毎日が送れるよう、子どもたちは、日々学んでいます。

今月も、児童全員が笑顔いっぱい、楽しく過ごす学校づくりに努めてまいります。

(校長 板坂 和明)

【二つの言葉は、お子さんとお話してみてください。来月お伝えいたします。】

ふと足元を見ると可愛いどんぐりが…。秋の訪れを感じる季節となりました。足元に転がる3つのどんぐりを見ながら、先日見かけた3人の1年生のやりとりを微笑ましく思い出しました。



休み時間が終わった頃、廊下で何やら揉めている2人の男の子。どうやら出会い頭にぶつかってしまったようです。仲裁に入ろうとした矢先、一人の女の子が、「喧嘩はだめ。どうしたの?」と二人に問いかけました。一人はトイレに、もう一人は外遊びから教室に戻ろうと急いで走っていたと正当性を主張。少々揉めた後、女の子が「二人とも走っていたからいけないね。」と言うと、男の子たちは、「そうだな。痛くなかった?」「どっちもごめんだね。」と仲直りしました。「自分たちで解決できて偉いね。」「ごめんねが言えてかっこいいね。」「仲直りさせてくれてありがとう。」と3人に声を掛けると、にっこりと最高の笑顔を向けてくれました。よくある学校の光景ですが、そこには、1年生なりに友だちの気持ちや立場を考えて自己統制していくという経験がありました。

日常の様々な人や事象とのかかわりの中で生じるハードルやトラブルこそ学びのチャンスです。人とかかわる喜びの経験と実感から、「社会性」を学んでほしいと思います。

(教頭 小林 美紀)